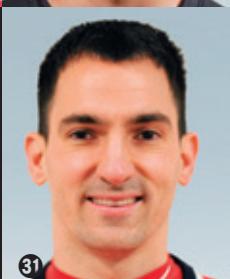




URAWA RED DIAMONDS OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM



Mihailo Petrovic

● PROFILE

1957年10月18日生まれ。ロズニツァ(旧ユーゴスラビア、現セルビア)

出身 国籍: オーストリア

ユーゴスラビアの名門、レッドスター・ベオグラードのユースチームで育ち、同国のFK ラド・ベオグラードでプロ選手としてのキャリアをスタート。93年に引退し指導者となった。96年から2年間、後に日本代表監督となるイビチャ・オシム氏が監督をするSK シュトルム・グラーツ(オーストリア)で、アシスタントコーチ兼アマチュアチーム監督を務めた。

2006年6月から2011年まで、サンフレッチェ広島島の監督を務め、同クラブの礎を築いた。

2012年、浦和レッドダイヤモンズの監督に就任。今季で5シーズン目を迎える。愛称は「ミシャ」。



4シーズンの成長を踏まえ さらに進んでいく すべての大会で 昨季を超える結果を目指す

みなさん、こんにちは。

新しい年、新しいシーズンが始まりました。この1年の、みなさんの健康をお祈りします。

浦和レッズは1月15日(金)にチームを始動しました。大原サッカー場に集まった選手たちは、誰もみんな充実した顔つきでした。天皇杯でケガを負った柏木とオフに膝の手術をした西川も、別メニューでしたが元気な姿を見せてくれました。

今季は4人の新しい選手がレッズに加わりました。必要なポジションを補強し、またチームの将来を担う世代を迎え入れることができたと思っています。

しかし、新しい選手はどうしても注目されがちですが、彼らにだけ過度な期待をするのではなく、これまで在籍してきた選手たちに大いに期待をしていただきたいと思います。このレッズのサッカーを最低でも1シーズン、長ければ4シーズンやってきた選手たちは、チームとして戦う上で大きく成長してきています。新しい選手たちが、その中に入ってくるとチームに馴染み、力を付けていくことができることを私は望んでいます。その上でチームをさらに押し上げてくれることを期待しています。

我々は今年の元日まで天皇杯を戦いました。そして2月24日(水)にAFCチャンピオンズリーグ(ACL)の初戦を迎えます。そういうスケジュールの中で、今季は選手たちに2週間足らずのオフしか与えられませんでしたが、昨季、多くの試合に出場した選手はまだ疲労が抜けきっていないかもしれません。メ

ディカルスタッフとも相談して、身体状況を見極めながら、キャンプでの負荷のかけ方を加減していかなければならないと思います。

私が浦和レッズの指揮を執って5シーズン目になります。その間にチームの成熟度も、リーグ戦での結果も少しずつ向上してきました。昨季もチームはいろいろな面で成長を見せましたが、今季さらに上を目指して進みます。

そして結果においても、昨年以上のものを求めていきます。

まずACLでは、昨季勝ち抜けなかったグループステージの突破をまず目指します。

ヤマザキナビスコカップでは、昨季ベスト8で終わってしまいましたから、まずはベスト4以上を目指します。

Jリーグでは、昨季勝点72を取りました。これはクラブ史上最多であり、Jリーグでも当時は最多の勝点でしたが、今季はその72を上回る勝点を挙げたいと思っています。

そして天皇杯でも昨季を超える結果を出したいと思っています。

あらゆる面で、常に昨季より上を目指していくこと。これが私の掲げる2016シーズンの目標です。

多くのサポーターのみなさんの後押しを受けて、一緒に戦っていくことで、達成したいと思っています。

今季も、よろしくお願いします。

Misha

2016 シーズンの開幕を前に

浦和レッドダイヤモンズ 代表 淵田敬三

いつも浦和レッドダイヤモンズにご声援をいただき、本当にありがとうございます。

2015 シーズンのトップチームは、AFC チャンピオンズリーグ (ACL) とヤマザキナビスコカップでは、早期に敗退してしまいましたが、11 年ぶりに 2 ステージ制となった J1 リーグでは 1st ステージを無敗で優勝し、リーグチャンピオンへの期待を高めることができました。しかし 2nd ステージで広島に猛追にあい、クラブ史上最多タイの 72 という年間勝点を挙げましたが、目標にしていた年間勝点 1 位には到達できませんでした。そしてチャンピオンシップでは準決勝敗退という結果に終わってしまいました。

その悔しさを胸に、シーズン最後の大会である天皇杯に挑みましたが、元日の決勝で敗れ、タイトルを手にすることができませんでした。みなさんからシーズンを通して、大きな期待と熱いサポートをいただきながら、お応えすることができず、非常に申し訳なく、悔しい気持ちです。

浦和レッズレディースは、プレナスなでしこリーグ 6 位、皇后杯ベスト 8 という結果でした。2014 シーズンにリーグ優勝、皇后杯準優勝という好成績を残し、期待も大きかっただけに残念でしたが、シーズン後半は若手の活躍も目立ち、しっかりとした戦いぶりを見せてくれました。今シーズンは再び優勝争いに加わってくれるものと信じています。レディースに対しましても、引き続き熱いサポートをお願いいたします。

ホームゲームの運営に関しては、2014 シーズンから続いていた、スタジアムでの掲出物の規制を徐々に解禁し、みなさんがより応援に力を発揮していただける環境作りに努めてきました。同時に「REX CLUB」を発足させ、ファン・サポーターのみなさんとレッズとの絆をより強くするための土台づくりにも取り組んできました。今後も「REX CLUB」を利用し、ホスピタリティーの改善に努めていくなど、さらにみなさんがレッズとの絆を感じられるようにしていきたいと考えています。

昨シーズンのホームゲーム (リーグ戦) の平均入場者は 38,745 人で、これは 2014 シーズンの、無観客試合を除いた 16 試合の平均を約 1,000 人上回っています。今シーズンも引き続き、魅力ある試合を行うと共に、安全・安心で快適なスタジアム作りに全力を尽くします。

私たちは中長期的には「アジアのリーディングクラブ」になることを目標に掲げています。これは全ての分野でアジアでナンバーワンになることを目指すとい

うことです。すでにアジア各地でハートフルクラブが何年も活動を続けており、浦和レッズの名前は、広がってきています。しかし何と言ってもチームが活躍することが、最も目標に近づく道です。今シーズンは ACL でグループステージ突破はもちろん、さらに上を目指します。

同時に「地域の誇りとなるクラブ」にもならなければなりません。このまちに浦和レッズがあって良かったとみなさんに思ってもらえるよう、育成に関しても、それぞれの大会で良い結果を残せるよう目指すだけでなく、このまちから、トップリーグで活躍できる選手の輩出を図るため、体制強化はもちろんのこと、地域貢献活動やホームタウン活動を深めていくつもりです。

ミシャ監督が就任して 5 シーズン目になりますが、今季も指揮を任せることについて、迷いはありません。この 4 シーズン、チームは年々勝点を増やしており、成熟度は非常に高まっています。今の浦和レッズは日本でも指折りの素晴らしいサッカーを見せてくれていますし、ここまで成長させてくれたミシャ監督には心から敬意を表します。

しかし、ファン・サポーターのみなさんや、地域のみなさんに悔しい思いをさせてしまっていることも事実ですから、2016 シーズンこそ、成長を結果に結び付けたいと考えています。もう一步前進するために、プラスワンの努力を続けていきます。ファン・サポーターの皆さん今シーズンもともに闘っていきましょう。

< 2016 トップチーム スタッフ >

- | | |
|---|------------------------------------|
| ■監督
ミハイル・ペトロヴィッチ
(Mihailo Petrovic) | ■アスレティック・トレーナー
野崎信行 (のさき・のぶゆき) |
| ■コーチ
堀 孝史 (ほり・たかふみ) | ■トレーナー
齋藤秀人 (さいとう・ひでと) |
| ■コーチ
天野賢一 (あまの・けんいち) | ■アスレティック・トレーナー
西垣輝光 (にしがき・てるみつ) |
| ■コーチ
杉浦大輔 (すぎうら・だいすけ) | ■トレーナー
鈴木 仁 (すずき・ひとし) |
| ■GK コーチ
土田尚史 (つちだ・ひさし) | ■通訳
ロドリゴ・シモエス |
| ■アシスタントコーチ
長嶺寛明 (ながみね・ひろあき) | ■主務
水上裕文 (みずかみ・ひろふみ) |
| ■メディカル・ディレクター
仁賀定雄 (にが・さだお) | ■副務
関 敏浩 (せき・としひろ) |
| ■ドクター
関 芳衛 (せき・よしえ) | ■副務
祖母井志門 (うばがい・しもん) |

どんなときも我慢強くやる

① GK 西川周作 29歳

★大分県出身。広島から移籍して3年目。昨季はリーグ戦34試合、ACL5試合、天皇杯3試合、チャンピオンシップ（以下、CS）1試合、富士ゼロックススーパーカップ（以下、FSC）1試合出場。Jリーグベストイレブン。Jリーグ通算321試合出場。1月4日（月）に左膝関節遊離体摘出手術をした。

◆昨季、第1ステージは攻守においてバランスが取れていて、我慢するところは我慢ができていました。完封で勝った試合は、ほとんどが1-0というのが、それを示していると思います。

第2ステージは、我慢しきれずカウンターでやられてしまう場面があったので、どんなときも我慢強くやるというのは忘れずにいきたいと思っています。

攻撃から守備への切り替えが自分たちのサッカーの生命線だと思っています。ボールを取られたところでの守備が昨季の第1ステージは本当に良くできていたから、今季は1年間それができるようにしたいです。相手の攻撃のときに一度構えてボールの取りどころを決めていくということもやっていきたいです。前に圧力をかける分、背後は自分もつと積極的に出ていきたいと思っています。レズにきて3年目。勝負の年です。



昨季より良いスタート切れる

② DF 加賀健一 32歳

★秋田県出身。F東京から移籍して2年目。昨季はリーグ戦4試合、ACL3試合、天皇杯1試合出場。Jリーグ通算157試合出場2得点。J2リーグ通算75試合出場4得点。



◆昨季1年間で、浦和レッズのサッカーがどういうものか、ピッチの外から見たり、実際にプレーしたりして、よく考えることができました。移籍したチームにすんなり嵌（は）まる人もいれば、なかなかうまくいかない人もいます。私も、もともと僕は今まで、どちらかと言えば後者の方だったと思います。1年間やってきたことで、今季はより良いスタートが切れると思っています。

リーグ最終節の埼玉スタ、あの雰囲気の中で先発できたのは大きいですが、試合に勝てたということも自分にとってプラスだと思っています。あの試合で最後までピッチに立っていらなかったのは残念ですが、そこも改善していきたいと思っています。今季、このサッカーをやり続けて優勝したいですし、みんなそのためにやっています。その目標をしっかり持ってやります。

もつと勝利に対し貪欲になる

③ MF 宇賀神友弥 27歳

★埼玉県出身。流通経済大から加入して7年目。昨季はリーグ戦31試合出場1得点、天皇杯3試合出場1得点、ACL3試合、ナビスコ杯2試合、CS1出場。Jリーグ通算157試合出場9得点。

◆昨季、僕たちより上に行った、広島、G大阪の2チームは、勝負強さが光っていましたし、我慢をするという部分でもチームとしての戦いが非常に統一されていきました。90分通して勝利のために何をするかというのが整理されて、チームとして結果を求めていくということが、残念ながら僕たち以上に徹底されてまとまっていたんじゃないかと思っています。

今季は、試合に勝つために90分間何をしなくてはいいかということを一ひとりが考えていかなければいけないと思います。

個の能力を高めていくということも必要ですが、試合の中でどうやって戦うのかという規律を一人ひとりが持つて、勝利に対してより貪欲にならないといけないと思っています。あとはゴール、結果にもっとこだわってみたいです。

昨季もチームは成長したと思いますが「まだ」ではなく、まだまだ足りないと思います。



リーグのホーム開幕戦で勝利。初めて「We are Diamonds」の合唱に加わった新加入選手たちは、この雰囲気を感じただろう（2015.3.14／山形県）

◆（西川）昨季はずっと違和感を抱えながらやっていたんですが、余計なものが取れたことで気持ちもクリアになりました。もう普通に歩いていますし、明日（16日）からはジョギングを開始します。みんなの元気な顔を見られて、始まるなという新たな気持ちになりました。自分はリハビリからのスタートですが、この時期だからこそできることがたくさんあるので、一つ一つ、確実にやっていきたいと思っています。（1.15）

より細部にこだわっていく

★DF 那須大亮 34歳

★鹿児島県出身。柏から移籍して4年目。昨季はリーグ戦30試合出場2得点、ACL3試合、ナビスコ杯1試合、天皇杯3試合、CS1試合、FXSOC1試合出場。Jリーグ通算368試合出場26得点。

◆昨季は、良いところがたくさん出たシーズンだったと思いますが、あまり自分たちの良さが発揮しきれなかった試合もあります。一番改善されたのは、攻守の切り替えが速くなったところと、我慢できる試合が多くなったことです。攻守の切り替えが速くなることで、メリハリ良く攻守にいけるようになりました。

今季は、バランスを取る部分や対人の部分をもっと整えていければと思います。

優勝するために、何が足りなかったというのは、勝負の世界では一つ正解があるものではないと思います。細かいこと一つひとつだと思っので、今季は細部にもっともっとこだわっていききたいと思っています。

個人としては昨季の終盤にケガをしてしまったのが残念です。今季は1シーズン通して身体を作り、コンディションを整えていきたいと思っています。



自分たちの年代が引っ張る

★DF 榎野智章 28歳

★広島県出身。1・FCケルンから移籍して5年目。昨季はリーグ戦33試合出場3得点、ACL5試合出場1得点、天皇杯3試合、CS1試合、FXSOC1試合出場。Jリーグベストイレブン。Jリーグ通算217試合出場32得点。J2リーグ通算41試合出場7得点。天皇杯決勝・G大阪戦の前半、右手に裂傷を負い、試合後に縫合手術をした。



◆昨季はチームが非常に成長したシーズンでした。選手個人も成長しましたし、それまでチームに足りなかったところを補えました。

ただ同じことをしていたのではタイトルは獲れないと思います。チームに何か変化を与えていくことが必要だと思っています。一つは僕たちの年代の選手たちが柱となって、チームを引っ張っていくことだと思っています。

試合の中で、絶対にやられないぞ、という気持ち全員が出していかなければいけません。スコアレスのときには、そういう気持ちでやれていることが多いですが、自分たちが点を取ってリードした後でも、O・Oのときと同じ緊張感や危機感を持ち続けることが重要だと思います。そのためには、ピッチ上で仲間を鼓舞する選手が、自分も含めて何人もいるチームになっていかないとはいけません。

優勝のために全てを捧げたい

★DF 遠藤 航 22歳

★えんどう・わたる。神奈川県出身。今季、湘南から移籍。高校生時代から湘南ユースで育ち、2011年にトップ昇格。すぐにレギュラーとなり。昨季はリーグ戦31試合出場4得点、ナビスコ杯1試合出場。Jリーグ通算54試合出場8得点。J2リーグ通算104試合出場15得点。U-16、U-17、U-18、U-19、U-21、U-22、U-23日本代表。日本代表国際Aマッチ5試合出場。現在、カタールで開催中の、リオ五輪アジア最終予選を兼ねたAFC・U-23選手権に、U-23日本代表のキャプテンとして出場している。

◆浦和レッズの一人としてプレーすることになりました遠藤航です。埼玉スタジアムのあの雰囲気の中でサポーターのみなさんと一緒に戦うことが、今からとても楽しみです。Jリーグ、ACLと厳しい戦いが待っていますが、浦和レッズの勝利とタイトル獲得のために、自分自身の全てを捧げたいと思います。ファン・サポーターのみなさん、応援よろしくお願いします。(12月23日コメント)



*写真IIJリーグフォト

もう一つ殻を破らないと

★MF 梅崎 司 28歳

★長崎県出身。大分から移籍して9年目。昨季はリーグ戦31試合出場8得点、ACL3試合、ナビスコ杯2試合、天皇杯4試合、FXSOC1試合、CS1試合出場。Jリーグ通算218試合出場29得点。

◆昨季は、個人としては年間得点を更新できたこともそうですし、プレーの部分で積み上げてきたものがあり、手こたえを感じたシーズンでした。でも、もう一つ殻を破らないといけないですし、それができていれば、チームの結果も違っていたものになっていたかもしれません。

昨季はゴールだけを意識しない、という時期もありました。チームで取れればいいと。でも、そういう部分もありつつ、ゴールというのは狙っていないと取れないのかな、という思いもあります。どちらか一つに絞るというのではなく、良いあんばいで狙っていければいいと思います。フラットな感覚の中で一瞬のスキを逃がしたくないですし、チャンスがあれば多少強引でも狙っていった相手に恐怖心を与えていくことも大事なかなと思います。チームの方向性を崩すことなく、そこをぶれずに突き詰めていきたいです。それがチームの厚みを出すし、細かい部分の積み上げにつながっていくと思います。



◆(榎野) 右手のケガの箇所が1cmでも横にズレていたら10時間くらいかかる手術になっていたらしいです。非常に痛かったですけど、勝ちたかったので、やり続けました。オフ中は不便でしたよ。食事はフォークかスプーン、あるいは左手でした。でも一番は髪を七三にセットするときかな(笑) まだ時間がかかりそうですが、日に日に良くなっています。(1.15)

自分の得点でチームを優勝に

⑨ FW 武藤雄樹 27歳

★神奈川県出身。仙台から移籍して2年目。昨季はリーグ戦32試合出場13得点、ACL3試合1得点、ナビスコ杯2試合、天皇杯4試合、CS1試合、FXXSOCI試合出場。J1リーグ通算102試合出場19得点。今季から背番号を変更。



◆昨季はすごく悔しさが残るシーズンになりました。タイトルを獲得には何かを変えないといけないと思うので、そういうことを考えていつてチームとしてまた成長したいと思います。

昨季のスタート時点で僕に期待している人は1人もいなかったでしょう。ただ思い切りやるということと突っ走ってききましたけど、2年目は昨季以上の結果を期待されるでしょうから、情けないプレーはできません。そういう意味で自分自身のハードルは上がっていると思います。自分がゴールを決めないといけないという気持ちは昨季だんだん強くなっていきまし、たとえばチャンピオンシッポの後半アディショナルタイムで自分が決めていけばと思うと悔やんでも悔やみません。プロになって、あれが一番悔しい場面です。これから自分のゴールでチームを優勝に導くように頑張ります。

楽しんで勝利と優勝に貢献

⑩ MF 柏木陽介 28歳

★兵庫県出身。広島から移籍して7年目。昨季はリーグ戦33試合出場5得点、ACL5試合、ナビスコ杯2試合、CS1試合、天皇杯2試合、FXXSOCI試合出場。J1リーグ優秀選手。J1リーグ通算276試合出場45得点。J2リーグ通算31試合出場4得点。今季から背番号を変更。天皇杯準決勝・柏戦の前半、左膝を痛め交代。決勝も欠場した。

◆昨季の最初は自分の体調が悪く、本当に苦しかったですが、体質が変わったことで、やってやろうと思えるきつかけになりました。それと、前線の選手が増えたので自分がボランチになったことも、一つの良いきつかけになったと思います。それで代表にも呼ばれたと思いますし、そのことがまた自信にもなりました。

昨季は、チームとしてはタイトルを獲得できなかったですが、個人としてはいろいろな意味で人間的にもサッカー選手としても成長できた年でした。自分が成長することがチームのタイトルにつながると思いますから、それはこれからも継続していきたいです。

目標がタイトルというのは当然です。そのために自分が楽しんで、勝利に貢献するというのが一番です。それが優勝につながると思います。



以前よりパワーアップして

⑪ FW 石原直樹 31歳

★群馬県出身。広島から移籍して2年目。昨季はリーグ戦4試合、ACL4試合、天皇杯1試合出場。右足前十字じん帯損傷のため4月から11月にかけて長期離脱。J1リーグ通算188試合出場47得点。J2リーグ通算143試合出場41得点。



◆昨季は、個人としては久しぶりに何も残せず、すっきりしない1年でした。

ただ監督やチームメイト、スタッフとの関係は、この1年で築き上げてきたものがあるので、今季のスタートは、昨季とは違った入り方ができていると思います。それだけでなく、自分自身、以前よりパワーアップしてシーズンに入れるように努力していきたいと思っています。

あとは試合を外から見ることが多かったのですが、レッズのサッカーというものを確認できましたし、勉強になりました。自分が入ったときに、どれだけ力になれるか、というのを考えていましたし、実際に力になれるようにやっていきたいです。簡単に試合に出られるとは思っていませんし、練習からしっかりやって、早く埼玉スタジアムに立てるように頑張りたいです。



第10節・柏戦。連続無敗記録がストップすることを覚悟したが、追加タイムに武藤が同点ゴールを挙げ、負けなしを14試合に伸ばした(2015.6.3/日立柏)

◆(武藤)「背番号9はどうだ？」と聞かれて、少し時間をもらい考えた上で、つけられるならつけさせてほしいと言いました。いろんな意見はあるかと思いますが、それをね除けるだけのプレーをしたいという考えに至りました。そういう覚悟を決めたということです。プレッシャーはないですが、責任を感じていますし、これから浦和レッズの9番にふさわしいプレーヤーになっていこうという気持ちです。(1.15)

今季はより結果が求められる

⑩ FW 高木俊幸 24歳

★神奈川県出身。清水から移籍して2年目。昨季はリーグ戦21試合出場2得点、ACL4試合、ナビスコ杯2試合、天皇杯2試合出場1得点、FXSOC1試合出場。J1リーグ通算141試合出場22得点。J2リーグ通算30試合出場6得点。今季から背番号を変更。



◆昨季移籍してきて、キャンプやACLの遠征でチームと過ごす時間が長かったので、チームに馴染むのは早かったと思います。

しかしチームの成績はそんなに悪くなかったですが、自分個人の成績としては、これまでのシーズンの中でも良くありませんでした。

ただシーズン後半から終盤にかけて、一つ壁を乗り越えたように思っているの、今季は試合でより結果を求められると思います。もちろん結果を出してチームの勝利に貢献したいと思っていますし、昨季とは全然違うスタートが切れるでしょうから、あとは自分のコンディションやフィーリングを上げていくことだと思います。

数が少なくても精度を高く

⑪ MF 平川忠亮 36歳

★静岡県出身。筑波大から加入して15年目。チーム最古参。昨季はリーグ戦8試合、ACL4試合、ナビスコ杯2試合、天皇杯1試合、CS1試合、FXSOC1試合出場。J1リーグ通算330試合出場9得点。

◆昨季は、出場機会が減った中で、チャンスをもらった試合でいかに自分の仕事ができるか、チームの勝利のために何ができるかというのを非常に考えた1年でした。久しぶりに入るときに、チームの良い流れを崩さないようにしていました。リーグ戦に関しては、出た試合はきっちり勝てた試合が多かったですが、ACLでは非常に苦戦して悔しさもあります。

また出場機会が減っていくことも予想されますが、その中で何ができるか考えたときに、全盛期より体力が落ちている中で、攻撃の精度を上げていかなければいけないと思っています。回数が減る分、きっちりとした仕事をしていくことにこだわっていききたいです。

今季もタイトルを狙うというのは当たり前ですが、常に優勝争いをするチームをミシヤが作ってくれているので、まずそういう位置にいるということは変わらずにやっていきたいです。その中で最後にタイトルを獲得できれば最高です。



リザーブに慣れてはいけない

⑫ GK 大谷幸輝 26歳

★熊本県出身。2008年にレッズユースから昇格。1年間期限付き移籍しレギョラー出場した北九州から、昨季復帰して2年目。昨季はナビスコ杯2試合、天皇杯1試合、ACL1試合出場。J2リーグ通算42試合出場。

◆昨季は試合に出る機会が少なかったですが、その中でも良かった試合、うまくいかなかった試合があります。ナビスコ杯ではチームを勝ち上がらせることができなかったですし、チームもタイトルを獲得できませんでしたから、あまり満足いくシーズンではなかったです。

レッズでは他のチームと異なることが求められますし、GKもゴールを守ることはもちろん攻撃参加という、他では求められないことが重要になります。そのあたりは、少し向上したかな、と思います。

個の部分を追求すること、存在感をもっと出せるようにやっていきます。リザーブが続くことは昨季1年間経験したので、うまくやれるでしょうが、それに慣れてはいけないので、しっかりと試合に出ることを目標にやっていきます。



出場時間増やし点に絡みたい

⑬ MF 青木拓矢 26歳

★群馬県出身。大宮から移籍して3年目。昨季はリーグ戦22試合出場1得点、ナビスコ杯2試合、天皇杯4試合、CS1試合、ACL4試合出場。J1リーグ通算170試合出場12得点。



◆昨季までやってきたことは間違いないと思います。ただ、優勝するのに足りなかったものは、どこをどう改善するというより、細かい部分だと思います。もう少し、としか思えないです。

負けた試合も決して悪い試合ばかりではなく、それを勝ちにするには、勝負どころというのが大事になってくると思います。

個人としては今季もっと試合に出るというのが目標で、先発出場などもっとプレー時間を長くしたいです。

それと昨季は最終節の1点だけだったので、もっとゴールに絡みたいんです。2年間、レッズのサッカーを学んできて徐々に良くなってきたのはわかるので、やはり続けていくことだと思います。3年目なので自分も結果が必要です。

◆(柏木) ケガ(左膝)の状態は、決して良いとはまだ言えないですが、開幕に向けて良い状態になればいいと思っています。背番号10については、ずっとチームから動められていましたが断ってきました。でも今季は、何かタイトルを獲得するために、一つ変化を与えたいということで、10番にしました。背番号を意識してプレーする訳ではありませんが、自分らしいプレーをして、なおかつそれがチームの優勝につながればと思います。(1.15)

シーズンの入りをしっかり

⑦ DF 永田 充 32歳

★静岡県出身。新潟から移籍して6年目。昨季はリーグ戦5試合、ナビスコ杯1試合、天皇杯1試合、ACL3試合出場。Jリーグ271試合出場6得点。

◆昨季のチームは、シーズンスタート時の調子が悪くてACLで早く敗退してしまいました。2年連続でACL出場権を得たので今季はグループステージを突破して優勝を目指したいです。Jリーグは昨季同様に良いスタートを切って、今季こそ優勝したいです。

自分自身は昨季出場が少なかったのですが、キャンプで「これだけできるんだぞ」というのをアピールしていきたいです。

昨季も終盤はコンディションも試合勘も戻ってきて持ち味を出せたと思うんですが、あれをスタートからできるようにしていきたいです。シーズンの入りを大事にしてやっていきたいです。

フィードに関してはまずまずできていると思いますが、持ち運びの部分をもっと勇気を持ってやっていかないといけないと思っています。監督からも強く要求されています。



高いレベルでプレーしたい

⑧ MF 駒井善成 23歳

★こまい・よしあき。京都府出身。京都から今季移籍。昨季はリーグ戦（J2）35試合出場3得点、天皇杯3試合出場1得点、J2リーグ通算171試合出場15得点。小学生から京都サンガF.C.の育成組織で育ち、2011年にトップ昇格。その年の4月30日にプロデビューした。U-15日本代表、U-16日本代表。

*写真Jリーグフォト



◆浦和レッズのようなビッグクラブに来ることができてとてもうれしいです。早く自分のプレーを出して皆さんに認めてもらえるように頑張ります。レッズは、日本代表選手も多く在籍していますし、選手一人ひとりのレベルも高いので、その中で自分がどれだけできるのが楽しみです。高いレベルでプレーすることが、自分のレベルアップにもつながると思うので、浦和レッズに加入させていたでこうと決心しました。

ミシヤ監督のサッカーは、自分たちでアクションを起こしていきますし、自分たちのスタイルを持つていくことにとても魅力を感じています。その中で、自分の得意とするプレーを出していきたいです。

自分自身の考え方が変わった

⑨ FW 李 忠成 30歳

★東京都出身。サウサンプトン（イングランド）から移籍して3年目。昨季はリーグ戦24試合出場2得点、ナビスコ杯2試合出場1得点、天皇杯4試合3得点、CS1試合、F-XSC1試合、ACL5試合出場。Jリーグ218試合出場54得点、J2リーグ31試合出場8得点。

◆昨季は第1ステージで優勝しましたが、年間優勝でこそ残念でした。

ただ個人としては、非常に実りのあるシーズンでした。一昨年加入してから、いろいろな厳しい声をかけられて、「どうしてサポーターが味方の選手にこういうことを言うんだろう」と疑問に思っていたんですが、周りに自分を好きになって欲しいというのではなく、自分が浦和を好きになることで、見方が変わりました。厳しい声も逆に温かく感じられるようになって、「みんながレッズのために頑張っているんだ」と考えてストレスがなくなりました。そう思えるようになって自分自身の調子もすごく良くなりました。それだけに優勝しなかったですが残念です。

今季はスタートからそうありたいですし、レッズは優勝する力が十分あると思っていますから、絶対に殻を破るための力になりたいです。



2ndステージは第2節から4戦連続で勝利がなく、第6節も先制されたが、梅崎の1ゴール1アシストで逆転勝ちした（2015.8.12／新潟戦）

◆（高木）13番は、クラブの方から選択肢をいただきました。この背番号の重さは、昨年1年間レッズでやって、身に染みて分かっていました。覚悟が必要だと思ったので、多少悩みましたが、これを励みにがんばろうと思って、決めました。啓太さんからも、「よろしく頼む」という言葉をかけてもらいました。「自分色にしていってくれ」とも言われたので、その言葉の通りに、この13番を、自分の色にできるように頑張ります。

自分にできることはまだある

④ FW ズラタン 32歳

★スロベニア出身。大宮から移籍して2年目（Jリーグ5年目）。昨季はリーグ戦29試合出場8得点、CS1試合出場1得点、ACL3試合出場1得点、天皇杯3試合、FXXSC1試合出場。Jリーグ100試合出場26得点。



◆昨季レッズに来て、とても良い感触を得ました。ビッグクラブでプレーするというのは、そういうことなのかと思います。常に先発から外されてもおかしくないチーム状況でしたが、途中から出たときもゴールを挙げることでチームに貢献できました。ただ、それに満足してはおらず、自分にできることはまだまだあると思います。それを今季は必ず見せていきたいです。

昨季自分たちが積み上げた勝点72というのは、素晴らしい結果だと思えますし、やってきたことは間違っていないです。1年でチームは非常に成長したと思います。このまま継続していけば、目標とする場所にたどり着けると思っています。昨季は、僕を含めて移籍してきた6人にとってすべてが新しい環境で、馴染むまで多少の時間はかかりましたが、1年を通して、お互いの特長をよくわかって今季を迎えられます。

さらに進むために結果が必要

② MF 阿部勇樹 34歳

★千葉県出身。2007年に千葉から移籍。その後、2010年9月から1年半レスタ・シティー（イングランド）に在籍し、そこから復帰して5年目。昨季はリーグ戦34試合出場3得点、ナビスコ杯2試合出場2得点、天皇杯4試合出場1得点、CS1試合、FXXSC1試合、ACL5試合出場。Jリーグ通算469試合出場67得点。

◆2ステージ制は以前にも経験がありましたが、昨季のチャンピオンシップは初めての形式でした。年間勝点1位を取れなかったことが、ああいう一発勝負の準決勝で負けたことにつながったと思います。勝点72を取りましたが、最終順位は3位だと言われればそれに従うしかなく、悔しさは残らないです。

第2ステージに入って、早い時間に点が入るとイキエになり、後半落ちてしまふことがありました。リードしていても我慢することが大事だったと思います。継続してやってきたことができていると思います。さらに上に行くには結果を出していかなければいけないと思います。このサッカーを続けていくためにも、今季は結果を出したいです。そのために、みんなが同じ方を向いて一つになって戦っていきます。



このサッカーで試合に出たい

③ GK 岩館 直 27歳

★いわて・なお。神奈川県出身。2014年6月に水戸から期限付き移籍。今季から完全移籍に。昨年3月末に左アキレス腱を断裂し、半年後に復帰した。



◆去年はケガで約半年間チームを離脱して迷惑をかけてしまいました。それにも関わらず、こうしてもう一度完全移籍という形でチャンスをお願いしたことに感謝しています。今年は、そのクラブの厚意に応えるためにも、自分のためにも、いつそう成長していきたいと思っています。

レッズのサッカーは自分たちがボールを持つことで試合の主導権を握るもので、GKからつないでゴールまで行くというのがリスクもありますが、それができればとても面白い、魅力的なサッカーになります。GKとしても、他のチームでは求められないことを求められるのは面白いですし、それをやっていけば自分の成長につながると思います。

こちらがリスクをかけて攻撃にいくところで、カウンターを受けてやられるリスクはありますが、年々そういう場面は減ってチームとしての完成度も上がっていると思います。自分自身その中で今季は1試合でも出場できるように頑張っていきます。

毎試合活躍できる選手になる

② MF 関根貴大 20歳

★埼玉県出身。レッズユースから昇格して3年目。昨季はリーグ戦32試合出場6得点、天皇杯4試合出場2得点、ナビスコ杯2試合、CS1試合、FXXSC1試合、ACL2試合出場。Jリーグ53試合出場8得点。

◆タイトルに関して2年連続で悔しい思いをしましたが、なぜかと言われれば実力かな、と思います。優勝できる力はあっても、それを常に発揮できるか、最後の大事なところで発揮できるか。それも含めて実力なんだと思います。

自分自身、もつと安定感を出していかないといいけません。調子が良いときはいいんですが、身体がつかなくなってきたときや、厳しい戦いになったときに力を発揮できるようにならないといけないと、1年を通して思いました。1試合90分間、力を出し切れるような身体作りもしていきたいですし、試合の中での力の出しどころも見極められるようにして、毎試合同じように活躍できる選手になりたいです。自分がレギュラーだと安心してはいけません。昨季以上の結果を出せるよう頑張ります。



厳しい環境だからレッズへ

26 MF 伊藤涼太郎 17歳

★いとう・りょうたろう。大阪府出身。岡山県作陽高校から今季加入。U-17日本代表、U-18日本代表。



◆浦和レッズから内定が出たとき、周囲の方からは、浦和レッズで出るのには厳しいというふうに言われました。ただ僕はそういうふうにはとらえていなくて、浦和レッズは日本代表の選手がいて、代表経験者も多いです。そこで出られれば、日本代表の力があるということになると思いますし、日本代表というものにとどまり着けば、世界も見えて、どんどん自分の道も広がっていくと考えています。だから浦和レッズを選びました。1年目から試合にどんどん出て、活躍したいと考えています。最終目標は、世界一の選手になることです。口では簡単に言えますが、僕はそう考えています。

浦和レッズでは、僕はシャドーのポジションになると思うんですが、一番憧れている選手がナイマル選手で、見ていて楽しいです。だから僕も観客の人たちに感動を与えて、もう一度こいつのプレーが見たい、と思っただけで選ばれる選手になれると思います。

(10月5日・記者会見から)

満員の増スタでプレーしたい

28 GK 福島春樹 22歳

★ふくしま・はるき。愛知県出身。専修大から今季加入。昨季、指宿キャンパスからほぼ恒常的に練習参加し、シーズン当初からレッズの特別指定選手に。U-20日本代表、第28回ユニバーシアード(韓国・光州)日本代表(準優勝)。

◆レッズからは大学3年生のときに一番早くオフアワーをいただきました。自分が必要とされていることを感じたことが大きな決め手になりました。そして、西川周作さんのプレーを見て勉強したいと思いました。昨年は特別指定選手でしたが、その経験を生かして今年からよりいっそう頑張りたいと思います。

昨年は、1年間レッズで練習をして、専修大学で試合に出て、その間に大学選抜の活動を挟んでという形だったので、考える余裕もなくやってきました。充実していた1年だったので、その経験を今年に生かせればと思っています。

満員の埼玉スタジアムでプレーすることを目指しているの、そこでチームに貢献できるプレーをしていきたいです。セーブするだけでなく、どのようにビルドアップして組み立てていくのかなどの面でも貢献していきたいです。



互いの特長理解してスタート

30 FW 興梠慎三 29歳

★宮崎県出身。鹿島から移籍して4年目。昨季はリーグ戦26試合出場12得点。天皇杯4試合出場3得点。ACL2試合出場1得点。Jリーグ通算282試合出場86得点。



◆昨季は自分自身のケガが何度かあった試合出場が多くなかったですが、その中で、だいたいいつもどおりのゴールは挙げられたと思います。

でもチャンピオンシップという大事なところで、ケガで出られなかったのは一昨年と同じで、そこでチームが負けてしまつというのが一番悔しかったです。サッカーにケガはつきものですが、練習でケガをするのはもったいないです。

昨季は前線の選手が多くなって、組み合わせもいろいろありましたが、1年間でお互いの特長もわかってシーズンを迎えられるから、今季は良いスタートが切れると思います。

ACLが最初からありますが、ホームでは必ず勝って、アウェイでは最低でも勝点1を持ち帰るといふ戦い方を身につけることが大事だと思います。



2シーズン、勝利していなかったリーグ最終節だが、李が5得点全てに絡み活躍で快勝した(2015.11.22/神戸戦)

★伊藤涼太郎は、1月3日(日)から12日(火)までロシアで行われた「第28回バレンタイン・グラナトキン国際フットボールトーナメント」に、U-18日本代表として参加。5試合すべてに出場し(うち2試合先発)、4得点を挙げた。

続ければ必ず結果が生まれる

③ DF イリッチ 32歳

★フランク・イリッチ。スロベニア出身。FCアスタナ（カザフスタン）から今季移籍。スロベニア代表（現役）として国際Aマッチ64試合出場1得点。



◆日本のビッグクラブの、浦和レッズの一人になったことはとても名誉なことだと思います。

私がスロベニアのオリンピックのユースチームでプレーしていたとき、トップチームの監督をされていたペトロヴィッチさんに誘われて、私はトップチームと練習をさせてもらいました。再び一緒に仕事ができて光栄です。ペトロヴィッチ監督の噂は聞いてきましたし、彼が常に新しいサッカーを要求していることも理解しています。チームが向く方向へ早く馴染むためにも一生懸命に頑張っていきたいです。

レッズの試合映像は、チャンピオンシップと天皇杯決勝、それからリーグの最終節を見ました。チームとして素晴らしいサッカーをやっていると思うし、それぞれの選手が高いクオリティーを持っていると思います。最後の最後で決めきることができずに、ああいった形になりましたけれども、素晴らしいチームだと思います。しっかりと自分たちのやっていることを続ければ、必ずもつといい結果が生まれると、見ていて思いました。

1年間前向きにやってきた

③ DF 橋本 和 29歳

★滋賀県出身。柏から移籍して2年目。昨季はリーグ戦6試合、ナビスコ杯2試合、ACL5試合出場、天皇杯1試合出場1得点。J1リーグ通算112試合出場5得点、J2リーグ29試合出場。

◆昨季は、個人としてはもっと試合に絡みかけたんですけど、強いチームでしかも特殊な戦術なので難しかったです。

しかし、その中でも自分の良さを出していけるような手こたえをシーズン終盤にはつかんだので、それは今季につながっていると思いますし、楽しみにしています。

何年もこのサッカーをやっている選手たちのように連係を高めていきたいです。1年間悔しい思いもしましたが、前向きにやってきましたし、今季は昨季と違う良いスタートが切れるように、身体もしっかり作ってシーズンインしたいです。



まだまだ進化する必要がある

④ DF 森脇良太 29歳

★広島県出身。広島から移籍して4年目。昨季はリーグ戦30試合出場2得点、ACL4試合出場1得点、ナビスコ杯2試合、天皇杯3試合、CS1試合、F-XSC1試合出場。J1リーグ通算216試合出場16得点、J2リーグ100試合出場9得点。



◆昨季もチームは大きく成長したと思いますが、勝点72でチャンピオンになれないのであれば、まだまだ進化しなくてはならないということです。

ただ、ここまで積み上げてきたものがあるので、さらにグンとアップさせるというのが、簡単ではないと思います。気持ちを一度リセットして、2016年は何としてもタイトルを獲得んだという気持ちでシーズンに入っていきます。

また、僕がレッズに来てから2度ACLでグループステージ敗退をしています。浦和レッズはアジアでもトップにならなければいけない存在です。突破だけでなくACL優勝を目指していきます。

昨季、チャンピオンシップ決勝や、クラブワールドカップにレッズが出場していなかったことは僕自身すごく悔しいです。ファン・サポーターのみなさんも悔しい思いで見ていると思います。今季こそその場に自分たちが立ちたいです。

2016シーズンの大会日程

■明治安田生命J1リーグ

- ・1stステージ 2月27日（土）～6月25日（土）
- ・2ndステージ 7月2日（土）～11月3日（木・祝）
- （第1節）
- ・2月27日（土）vs 柏（A）
- （第2節）
- ・3月6日（日）vs 磐田（H）

■Jリーグヤマザキナビスコカップ ノックアウトステージ

- ・準々決勝 第1戦 8月31日（水）
- ・準々決勝 第2戦 9月4日（日）
- ・準決勝 第1戦 10月5日（水）
- ・準決勝 第2戦 10月9日（日）
- ・決勝 10月15日（土）

■Jリーグチャンピオンシップ

- ・1回戦 11月6日（日）
- ・準決勝 11月23日（水・祝）
- ・決勝 第1戦 11月29日（火）
- ・決勝 第2戦 12月3日（土）
- *22日（火）の可能性あり
- *30日（水）の可能性あり

■AFCチャンピオンズリーグ グループステージ

- ・第1節 2月24日（水）vs シドニーFC（H）
- ・第2節 3月2日（水）vs 未定（A）
- ・第3節 3月16日（水）vs 広州恒大（A）
- ・第4節 4月5日（火）vs 広州恒大（H）
- ・第5節 4月19日（火）vs シドニーFC（A）
- ・第6節 5月3日（火・祝）vs 未定（H）

*未定は浦項スティーラース or ハノイT or 香港傑志



★上記、大会日程で、AFC チャンピオンズリーグ ノックアウトステージと第96回天皇杯全日本サッカー選手権は未発表。

2016シーズンのチーム強化

上位安定からタイトルへ

— 山道守彦・強化本部長に聞く —

たことで、競争が激しくなると思います。

— チームの現状をどう見えていますか。
浦和レッズは安定した高いレベルで優勝争いに絡むチームであること、あり続けることが大事だと思っています。

高いレベルのラインがどこかというのは、翌年のACL出場権だと思います。チャンピオンズリーグへの出場というのは、どの国でも上位の指標となるものです。それでいうと、この4年間で3回ACLに出場しているというのは上位で安定してきている、と言っていると思います。優勝していないのですから、満足できる結果だったとは言えませんが、毎年優勝争いするチームになっていることは間違いありません。

成長曲線で言うと、バロメーターの一つはリーグの勝点だと思います。これは2012年から昨季まで毎年上がり続けています。また得点と失点は増減がありますが得失点差は広がり続けています。

一方、監督が5年目になるわけですから、マンネリ化のリスクもあります。チームに刺激を与えるような選手を獲得し



今季はこの4人と、伊藤涼太郎、遠藤航が陣容に加わる

守備陣の強化と次代の準備
目的に沿った補強ができた

— 今回の補強のポイントは何かだったのでしょうか。また、それは狙いどおり推移したのでしょうか。

我々はACLでこの4年間で2回グループステージで敗退しています。また昨季はリーグ戦で勝点72を取りましたが優勝できませんでした。補強のポイントと言えば、この状態を打破する、一言でいうとそれだけです。

ポジションとしては、守備陣の年齢が上がっていますから、守備陣へのテコ入れは必要だと考えていました。また全体のチーム構成では、28歳・29歳の選手が多くそこが中心になっていますが、切れ目のない戦力維持のために、その次の中心を担ってくれる若く才能のある選手たちを獲得しました。

— 一方で、その世代の選手が継続も含め7人期限付き移籍に出ていますか。

期限付き移籍というのは、

選手個人の強化の一環です。レッズに戻って活躍してもらうために期限付き移籍に出しています。当然、移籍先で力を付けて、来年か再来年には戻ってレッズで勝負すべき選手たちですし、先ほど言った次の中心を担って欲しい世代です。しかし、そこでトップに定着できるかどうかは本人たち次第です。

レッズの育成出身選手で、現在プロでやっている選手はJ3を含めて40数人います。もちろん我々も自分たちが育てた選手に、レッズで活躍して欲しいのは当然です。チームのレベルが高くなればなるほど、彼らにとってはレッズでプレーするハードルが高くなるのは仕方がない状況だと思っています。

ただ、今季の27人のうちレッズの育成出身選手は3人いますし、うち2人がレギュラーと言えます。一昨年までは原口や加藤もそうでしたし、決して少なくはないと思っています。

— 選手の補強以外のチーム強化策としては何かありますか。

大原の設備の改修を行いましたし、育成関係でも与野八王子グラウンドに設備を新設して、強化を図っています。

設備も人材もそうですが、投資というのは安定していない時期には難しいものです。上位で安定し、コンセプトがしっかりあって、先を見据えることのできる今の時期は、そういうことができます。

J3リーグへの参加はしない
サテライトは来季以降可能性

— 今季から導入されたJ1・J2クラブのU23チ

ームがJ3リーグに参加するという制度は利用しないのですか。

今季の27人のうち12月31日段階で23歳以下の選手は3人だけです（遠藤、関根、伊藤）。この状況でJ3に参加するとなれば、その年齢の選手をそろえなければなりません。それでは意味がないと思います。それよりも個人の育成を目的とした期限付き移籍の方が成果があると考えています。

— サテライトリーグへの参加というのはいかがですか。

それは有効な一つの強化方法だと思っています。ただ関東というのはJクラブも多いですし、強い大学チームも多いです。ACLも戦っていく中では、練習試合をフレキシブルにやっていく方が実情に合うと思います。今季は参加しませんが、サテライトリーグについては状況を見て、来季以降参加していくかもしれません。

— そういう中で、今季の目標を聞かせてください。

昨季のチャンピオンシップ準決勝や、天皇杯決勝は本当に悔しい思いでした。

今の浦和レッズは、日本のどこにも負けないコンピテンションで点を取るサッカーをしていると思います。そのスタイルに合うと思われる選手の補強をしてきましたし、先ほど言った安定して上位で優勝争いができる体制は今季も準備ができたと思っています。

リーグ戦の勝点では昨季以上の成績を挙げて欲しいですし、シーズン終盤にはタイトルという結果を出して欲しいと思っています。



THE WARRIORS

文◎矢内由美子

柏木陽介

浦和の太陽が役割と輝きを増す 優勝へのキラーパス放つ10番

ウトサイドで出した長めのパスを、左サイド後方から駆け上がった梅崎が決め、待望の先制点もたらされた。

そのとき、スタンドの記者席から見ていて「あとで絶対に確認しよう」と思っていたのが、柏木は梅崎の姿が見えていたのだらうかということだった。その疑問を解決すべく、試合後に柏木に聞くと、答えは「見えていた」だった。

よくあそこから見えていたものだと感じしたのは当然として、さらに驚かされたのは梅崎のコメントを聞いたときだった。梅崎はこう言った。

「僕が上がってきていることを甲府のDF陣は気づいていなかったようだったけど、陽介は見えていたと言っていた。あそこが見えるというのは凄い。ボールを持っていたときの陽介の位置からすると、僕は角度のないところにいたのに」

このときは、元来持っている視野の広さと同時に、ミキササッカーの中でシャドーとしてプレーしてきた多くの経験が生きた。柏木は胸を張りながらこのように説明した。

「シャドーをやっていたとき、いつもこういうパスを欲しいとイメージしながらプレーしていた。ボランチになってからは、自分が欲しかったようなパスを出そうと考えていた」

レッズの10番を背負う心機一転の今シーズン、柏木には大きく2つのターゲットがある。リーグ優勝とAFCチャンピオンズリーグ(ACL)制覇だ。

自身にとって2度目のアジア挑戦となつた昨年のACLでは、グループステージ

ジ6試合中5試合を終えた時点で1勝もできずに敗退が決まるという屈辱を味わった。

「正直言って、ACLは負ける相手ではなかったという思いがある一方で、メンバーを替えながらやっていた難しさはあった。もちろん、いろいろな選手を使わないと(過密日程で体力が)持たないという考えもあったと思うけれど、良いメンバーがいる中で敗退したのは非常に残念だった」

柏木は自身初のACL出場だった13年も惜しいところでノックアウトステージ進出を逃している、それだけに、今年こそ「三度目の正直」でグループステージ突破を果たしたいとの思いは非常に強いはずだ。

リーグに関しては、しっかりコンディションを整え、スタートダッシュの力になりたいという考えがあるだろう。昨年は開幕戦を体調不良で欠場しており、これをずっと悔やんでいた。大会は違うが、天皇杯決勝を左膝の負傷で欠場したことも心残りであるに違いない。それらの悔しさをぶつけるのが2016シーズンだ。

レッズ加入7年目となる浦和の太陽は、ボランチ(舵取り)としてはもちろんのこと、レジスタ(演出家)として、そしてチームの顔としての役割を担うことが大いに期待される。

背番号10に笑みがこぼれるとき、レッズは勝利を収めているはず。そう思うと、もう、開幕が待ち遠しくてたまらないのである。

司 令塔タイプのボランチとして昨シーズン、新境地を開いた柏木陽介の背番号が、今シーズンから10番になった。

レッズでは11~14年につけていたマルシオリシャルデス以来、2年ぶりの背番号10復活。また、Jリーグの背番号が固定制になった97年以降(※93年~96年は試合毎の変動制)、レッズの日本人選手がつけるのは久しぶりで、98年から00年まで背負っていた福永泰以来、実に16年ぶり2人目となる。

柏木自身は広島時代の08、09年にも10番をつけていたことがあり、本人にとってはプロで2度目の背番号10だ。近年はプレミアスタイルにも8番がよく似合っ

ていると思っていただけに、新背番号が発表されたときは少し意外な感じがしたが、すぐにその考えは吹き飛んだ。今シーズンに懸ける彼の意気込みが一層鮮明に伝わってくる背番号だったからだ。

そんな柏木を高みへと押し上げてきた天賦の才が、視野の広さである。その才能が存分に生かされたのは、昨年4月29日のJ1第1ステージ第8節・甲府戦だった。立ち上がりから強固なブロックを作って守る甲府に対し、レッズはなかなかゴールを奪うことができないまま、時間が過ぎていった。

しかし、焦れずに攻めていた74分。中盤の右寄りでボールを持った柏木が左ア

最高のサッカーで日本最高の座に就こう

浦和レッズの4年間を振り返る

★ミシャ監督5シーズン目を迎えた。この4年間、選手の入れ替わりはあったが、チームのコンセプトは変わらず、ボールを保持して試合の主導権を握り、連係で相手を崩して点を取る、というサッカーを磨いてきた。さらに攻守の切り替えの速さ、粘り強い守備、我慢強い試合運びなど、毎年成長を続けてきた。その結果、年間総得点・総失点はシーズンにより増減はあるが、得失点差は年々改善され、年間勝点もリーグ優勝に匹敵するものが取れるようになった。しかし大会の成績では、リーグ戦、ナビスコ杯、天皇杯の国内大会でいずれも最高位が2位。ACLはグループステージ突破を果たしていない。流れるようなコンビネーションで相手ゴールを陥れる様子は日本で最高のサッカーと呼んでいい。あとは日本の頂点に立つだけだ。2016シーズン開幕を前に、過去4年間を振り返る。

■2012シーズン■

ミシャサッカーが急速に浸透
勝つ喜びが戻りACL出場へ

▽IN……ボボ、横野智章、阿部勇樹

野崎雅也、矢島慎也

▽OUT……エジミウソン、高崎寛之、堤

俊輔、堀之内聖、原一樹、青

山隼、マツウラ、スピラノビ

ツチ(7月)、高橋峻希(7月)、

エスクデロ・セルヒオ(7月)

★前年、残留争いを何とかしのいだレッズは、ミハイロ・ペトロヴィッチ監督を招聘。チームの再構築を図った。

練習試合の翌日もオフにならないハードなキャンプをこなし、シーズンインすると、リーグ開幕戦は、同じサッカーの「先輩」である広島に敗れたが、その後

は柏、札幌、川崎F、鹿島、神戸に4勝1分けと5戦負けなし。前年、苦しいシーズンを送っただけに「勝つ喜び」を久しぶりに思い出した。

自陣深くに相手が来ててもクリアせず、後ろからボールをつないでいくサッカーは斬新であり、見るものをハラハラさせたが、それが新しいレッズのスタイルとしてファン・サポーターに認識されるのに時間がかからなかった。

選手たちは、あまり経験のない戦術に戸惑う時期もあったが、積極的にミシャサッカーに挑戦していた。それを支えたのは、ミシャ監督の希望で獲得したという横野と、レッズ3年目になっていた柏木の存在だろう。広島時代にミシャサッカーを知る2人がいることで、戦術浸透のスピードが速くなったことは間違いない。また、1年半ぶりに戻ってきてキヤプテンを任された阿部が、ボランチと



▲リーグ最終節の名古屋戦でFKを直接決める横野。
この試合の勝利でACL出場権を得た(2012.12.1 /埼玉スタ)

して試合をコントロールしながら、ビルドアップの中心になったこともチームを安定させた。

* * *

このシーズン、大原サッカー場と埼玉スタジアムに笑顔が戻った。大原では、ミシャ監督が「レッズでは練習中に笑うことを禁じられているのかと思った」と言うほど、前年の重苦しい雰囲気を引きずっていたが、スキンシップを欠かさないミシャ監督の選手へのフレンドリーな接し方と、サッカー自体の面白さと勝利の味を最大の魅力として、選手たちは厳しくも楽しい練習に日々取り組んでいた。スタジアムでは勝利の後、サポーターの「We are Diamonds」の合唱に選手が加わり、というパフォーマンスが定着し、

喜びの時間を共有するようになった。「レッズらしさを大事にする形で、勝利の喜びをサポーターと分かち合いたい」と考えた横野の発案だった。

若手を積極的に起用して臨んだナビスコ杯は予選リーグで敗退したが、リーグ戦は前半17試合を終えて3位。首位も狙える位置で折り返したが、後半戦は思うように勝てなかった。とりわけ残留争いの渦中にあったG大阪と、すでに降格が決まっていた札幌にいずれもホームで続けて敗れたことは、苦い教訓となった。

札幌に負けた後、仙台、C大阪、川崎Fに1分け2敗と、このシーズン初めて4試合未勝利という状況を打破したのは第32節の広島戦だった。開幕戦で完敗した相手に、2-0の勝利。我慢の時間も長かったが、規律を守って戦い抜いた。33節はアウエイで鳥栖に敗れ順位を5位に落としたが、ホームに戻った最終節で名古屋に勝ち、順位を3位に戻して5年ぶりにACL出場権を得た。

レッズで12年間プレーしたワンダーボーイ、田中達也が契約満了となった(のち新潟に移籍)。

■Jリーグ 15勝10分け9敗47得点42失
点勝点55 3位

■ナビスコ杯 予選敗退

■天皇杯 4回戦敗退

■2013シーズン■

ナビスコ杯決勝進出も準優勝
得点力は増したが失点も多く

▽IN……那須大亮、関口訓充、阪野豊

史、永田拓也、興梠慎三、森脇良太
 ▼OUT... 田中達也、ボボ、濱田水輝
 デスポートビッチ（6月）、岡本拓也（6月）

★日本代表または五輪代表経験を持つ選手たちを獲得。レッズのサッカーを充実させるために各ポジションを強化し、同時に5年ぶりのアジアでの戦いに備えた。

そのACLでは、中国の広州恒大に初戦アウェイで完敗。しかし、その後の踏ん張りですべて3勝1分け2敗と、勝点を10まで伸ばしたがグループステージ（GS）突破はならなかった。

ACL出場で予選リーグシードとなったナビスコ杯は、準決勝第1戦で川崎Fに2-3と敗れたが、ホームの第2戦で後半35分に決勝点を挙げ1-0の勝利。アウェイゴールの差で決勝に進出した。通算5度目の舞台となった決勝では、試合の主導権を握ったものの、前半終了間際に奪われた1点をはね返せず惜敗。ナビスコ杯4度目の準優勝に終わった。

リーグ戦では、開幕が前年と同じアウェイの広島戦だったが、2-1で勝利。それを皮切りに第6節まで5勝1分けの負けなしと好調な出足だった。11人の先発メンバーが定着し、連係が良くなっていたことが好調の要因だった。特に1トップの興梠は、鹿島時代とはかなり違うプレーを要求されたが、試合をこなすうちに見事なポストプレーを披露した。また前年1トップを務めることが多かった

た原口はシャドーの位置で本領を発揮。年間自己最多の11点を挙げた。

新戦力の中では、第4節で負傷した永田の代わりに3バックの中央に入った那須が守備だけでなく、チーム3位の9得点と攻撃でも活躍。ミシャサッカーを知る森脇の加入も、得点力をアップさせる一助となった。



▲新加入の興梠がワントップに定着したことで攻撃力が一段上がった
 （2013.8.31 / 新潟戦）

しかしこのシーズン、得点は66と前年から19点増えたが、失点も14点増えて56点。攻撃に重心がかかった分、奪われてカウンターから失点することが目立った。特にリーグ終盤、ヤマ場の試合を落とし、ラストの4試合を1分けの後3連敗。第30節まで2位にいて、首位獲りも狙える勝点差だったが、最終的に6位にまで順位を落とした。

また天皇杯では選手を入れ替えて臨ん

だリーグ戦の狭間の4回戦で山形に敗れ、早々と姿を消した。

20シーズンレッズで在籍し、キャプテンとして数々の優勝を牽引し、Jリーグ500試合出場を達成した山田暢久が契約満了となった（のち現役を引退）。

■リーグ	17勝7分け10敗66得点56失点勝点58 6位
■ナビスコ杯	準優勝
■天皇杯	4回戦敗退
■ACL	GS敗退

2014シーズン ■ 失点が激減、後半は首位走る悔やみきれないラスト3試合

▽IN... 濱田水輝、青木拓矢、李忠成、西川周作、関根貴大

▼OUT... 山田暢久、野田紘史、野崎雅也、大谷幸輝、永田拓也、小島秀仁、山岸範宏（6月）、原口元気（6月）

★ミシャサッカーの大きな特長の一つは、GKが守備だけではなくフィールドプレーヤーと同じように、攻撃の組み立てに参加すること。その点では日本で並ぶものがない、日本代表GKの西川を獲得して、前年56失点の守備は大きく改善された。第10節から16節までリーグ戦7試合連続無失点のJリーグ記録を作るなど、34試合中16試合を無失点で終えた。失点が減ったのは西川の好守によるものだけではなく、攻守の切り替えを速くし、相手のカウンター攻撃を防ぐことに重点

を置いたのが功を奏した。

ワールドカップによる中断期間中に、レッズ生え抜きの原口がドイツへ移籍したが、その後も成績を落とすことなく、リーグ後半は第19節から首位を堅持していた。

一方、ナビスコ杯では初戦を落としたものの、その後は勝ち続け、決勝トーナメントに進んだ。しかし準々決勝で広島と対戦し、2引き分けながらアウェイゴールの差でバースト4に進めなかった。

天皇杯も第2戦となる3回戦で群馬に敗れ、リーグ優勝に最後のタイトルルの期待がかかった。しかし第28節で、鬼門と言われるアウェイの仙台戦で敗れると、続く甲府、鹿島に引き分け。しかもチーム最多得点の興梠が、鹿島戦で右足腓骨を骨折するアクシデントがあった。

31節は横浜F.Mに競り勝った。18日間のインターバルの後、勝点5差で2位G大阪をホームに迎えた第32節は勝てば2試合を残して優勝が決まるはずだった。レッズは、相手の得点源である宇佐美とパトリックを完全に封じていた。しかし、その両者が交代した後の後半43分、一瞬のスキを突かれたカウンターから失点。さらに追加点を奪われ、勝点を2差に詰められてしまった。

また首位は変わらず、残り2勝すればレッズが優勝だった。臨んだ第33節は、過去2年いづれも同じ節で対戦し敗れている、アウェイの鳥栖戦。優勝への意欲に燃えるレッズは、悪いジンクスを吹き



▲西川は、失点を前年の56から32に激減させただけでなく攻撃の起点にもなった
(2014.4.29 / 横浜 FM 戦)

飛ばす戦いで、後半24分に阿部がPKを決めてリードを奪った。しかし勝利を目前にしたアディショナルタイム4分、鳥栖CKから同点とされ、選手たちはピッチに崩れ落ちた。

2位に後退したとは言え、最終節の結果次第で再逆転の可能性が十分にあった。

その最終節、レッズは名古屋に先制。しかし前半を終えてG大阪・徳島が0-0ということから、硬くなつたのか、一度切れかけた優勝への執着心が戻らなかつたのか、後半2点を失い逆転負けした。G大阪が引き分けに終わったという情報も、悔しい気持ちに追い打ちをかけた。つかみかけたタイトルを自らの失速で逃がした、悔やんでも悔やみきれない苦戦だった。

いシーズンだった。
13年間在籍した坪井慶介が契約満了となった(のち湘南に移籍)。

■Jリーグ 18勝8分け8敗52得点32失点
点勝点62 2位
■ナビスコ杯 ベスト8
■天皇杯 3回戦敗退

■2015シーズン
無敗で第1ステージも年間3位
天皇杯でもG大阪に元日苦杯

▽IN……加賀健一、石原直樹、武藤雄樹、ズタン、高木俊幸、橋本和、大谷幸輝、小島秀仁、岡本拓也、斎藤翔太、茂木力也

▼OUT……坪井慶介、山田直輝、マルシオ・リシャルデス、関口訓充

濱田水輝、加藤順大、阪野豊史、矢島慎也、小島秀仁(7月)

★他クラブからの移籍6人。ACLと並行した戦いを乗り切るための補強だった。だが新戦力が増えたことでチーム全体の仕上がりが遅れ、ACLと富士ゼロックススーパーカップで公式戦3連敗のスタートとなった。ACLは、その後GSで敗退した。

しかし2ステージ制になったリーグ戦は、開幕戦で湘南に逆転勝ちすると、その後も順調に勝点を積み上げ、12勝5分けの無敗で第1ステージを制した。新加入の中でいち早くフィットした武藤の活躍が目をつけた。



▲武藤のチームへのフィットが大きなポイントだった
(2015.11.22 / 神戸戦)

躍が目をつけた。

ところが第2ステージに入ると、第2節から4試合を勝ちなしという思わぬ結果が待っていた。2節の山形戦は良いところなくスコアレスドローだったが、その後の広島戦、名古屋戦、甲府戦はすべて試合を支配し、多くの時間で持ち味を発揮していたが、わずかなスキに失点して勝点を落とした。

そこからまた3連勝するなど、踏ん張ったが、徐々に広島に迫り上げられ第1ステージの勝点9差をひっくり返されて年間勝点では2位となった。

しかし前年、前々年のように終盤勝ちなしでリーグ戦を終えるのではなく、好調を維持し、自信を持って年間勝点3位のG大阪とのチャンピオンシップ(CS)準決勝に臨んだ。

試合は後半早々にミスから失点したが、その後追い付いてからはレッズが攻勢を続けた。しかし、あと一歩で勝ち越

し点が入らず延長に。延長後半、オウンゴールを免れた相手のカウンターで決勝点が入るという誰も予想できない展開で決勝進出の道を断たれた。

ナビスコ杯は代表選手の不在も影響したのか、準々決勝2試合合計スコアで新潟に敗れた。しかし同じく代表不在だった天皇杯4回戦は、久しぶりに先発した選手たちの活躍で勝利し、1か月後の準々決勝にコマを進めた。

CSから4週間。気持ちを切り替えて臨んだ天皇杯は準々決勝で神戸に3-0。準決勝では延長後半に劇的な決勝点が入り、柏を破った。

CSの雪辱戦でもあるG大阪との元日決戦。パトリックのスピードで先制されたが、前半のうちに同点に。左膝負傷で欠場の柏木に代わって先発した青木が起点となり、梅崎、李、興梠が絡んで得点した。しかし後半セットプレーから勝ち越され、その後に投入された高木のクロスなどでチャンスを作ったが、追いつけなかった。

16年間在籍した鈴木啓太がシーズン中に退団を表明。リーグ最終節終了後、現役引退の意思を明らかにした。

■Jリーグ 21勝9分け4敗69得点40失点
点勝点72 3位(年間勝点2位)
■ナビスコ杯 ベスト8
■天皇杯 準優勝
■ACL GS敗退

ミシャ監督5シーズン目のレッズ ディテールをどう積み上げるか

大住良之◎サッカージャーナリスト

「勝てなかったということに関しては、我々には何かが足りなかったと思います。その小さいことのひとつひとつを積み重ねることが、来シーズンの成功につながると思います」

ことし元日、天皇杯決勝戦後の記者会見でのミシャの言葉が頭から離れない。

昨年、レッズは1年間を通じて素晴らしいサッカーを見せた。序盤、興梠を欠いた時期にも李やズラタンがしっかりカバーし、関根と武藤が攻撃の大きな戦力として台頭、リーグ終盤にはズラタンと李が完全にチームのリズムに乗って攻撃力アップをもたらし、14年までの「優勝目安ライン」の年間勝点70どころか、80突破も可能ではないかと思える内容だった。

ミシャ就任から4シーズン目。その成長の跡は、34試合を戦い抜いた「年間勝点」の推移を見れば明白だ。2012年55、13年58、14年62、そして15年72。

攻撃時に「後ろのライン」か

「前線の5人」への球出しが遅かったのが、武藤の加入と柏木のボランチ定着で格段に早くなり、中央突破、サイド突破のバリエーションも回数も飛躍的に増えた。そのサッカーは、「フアーストステージ」のみならず2015年の「Jリーグチャンピオン」の座にふさわしいものだった。

だがその力を表現できたと思えた試合のいくつかを落としたことが、またしても大魚を取り逃す要因となった。ホームでの広島戦、そしてチャンピオンシップ準決勝と天皇杯決勝戦のG大阪戦などだ。

こうした試合で勝利を取り逃した要素を、ミシャは「小さなことのひとつひとつ」と表現したのだ。

「サッカーとは無数のディテール（詳細）の積み重ね」と、多くのコーチが説いてきた。2002年から03年にかけてレッズを指揮し、現在につながる現代的なサッカーの基礎を築いたハンス・オフトも、日本代表を率



天皇杯

優勝する力は十分に持っている。それを結果につなげるために積み上げるものとは

に周囲の選手がどう対応するか。

たとえばチャンピオンシップの後半アディショナルタイムの武藤のヘディングシュート。力で抜こうというシュートではなく、コースに送り込んだり、GKが取りにくいバウンドのシュートにすることができなかったらどうだろうか。

たとえば同じ試合の延長後半12分の守備のバランス。チーム全体というより、数人の選手がもう一瞬早く、もう数メートルポジションを動かしていたら防げたのではないか。

たとえばセカンドステージの広島戦、高木が倒されて得たPK。周囲の選手たちは「高木が蹴ることだからの戦力アップになる」と高木に任せたのだが、他の判断はなかったのか。

たとえばナビスコ杯準々決勝第1戦の新潟戦。前半終了間際の失点で1点のビハインドを負って後半に突入したとき、「取り返そう」という気持ちと、「これ以上失点はしない」という気持ちのバランスをどう取るべきだったのか…。

2016年のレッズは、これからの日本代表を担うポテンシャルをもつ遠藤航、スロベニア代表の大型DFイリッチ、京都の超テクニシャン駒井善成という3人の有力選手の移籍と将来性豊かな伊藤涼太郎の加入で、大きな戦力アップが期待されている。

しかしレッズに必要なのは「優勝への切り札」や「最後の1ピース」などと表現される個人の力ではないような気がする。新加入の4人を含めた今季登録の全27選手が、それぞれに「ディテール」の一つずつに取り組み、チームとして「足りなかった小さなことのひとつひとつ」を積み上げること以外にない。

弱い地盤に大砲を据えてもすぐに威力は半減する。ディテールを積み上げることは、ミシャが目指す「1、2年ではなく、長い期間優勝争いができるチームづくり」への堅固な土台づくりに通じる。

現在のレッズの力の源泉である動きの質の高さとパスワークを生んだのは、2012年からミシャが飽くことなく続けてきたトレーニングで「小さなこと」を一つ一つ積み重ねてきた結果であることを、もういちど思い起こす必要がある。



2016 ユニフォーム販売について

販売商品・サイズ・価格（税込み）・発売日

- ◆オーセンティックユニフォーム 1st 赤（半袖）
S・M・L・XL・2XL・3XL 19,440 円
(2月6日)

 - ◆レプリカユニフォーム 1st 赤（半袖）
S・M・L・XL・2XL・3XL 12,852 円
(2月6日)

 - ◆レプリカユニフォーム 1st 赤（半袖） ウイメンズ
XS・S・M・L・XL・XXL 12,852 円
(2月6日)

 - ◆レプリカユニフォーム 1st 赤（半袖） BOYS
130・140・150・160 9,612 円
(2月6日)

 - ◆レプリカユニフォーム 2nd 白（半袖）
S・M・L・XL・2XL・3XL 12,852 円
(2月13日)

 - ◆レプリカユニフォーム GK 青（半袖）
S・M・L・XL・2XL・3XL 12,852 円
(2月13日)

 - ◆ACL モデルレプリカユニフォーム 1st 赤（半袖）
S・M・L・XL・2XL・3XL 15,120 円
(2月20日)

 - ◆トレーニングウェア、カジュアルライン等
S・M・L・XL・2XL 8,640 円～ 17,280 円
(2月27日)
- *浦和レッズ初の試みとなる女性用シルエットの「ウイメンズレプリカユニフォーム」を新たに発売します。
*一部ユニフォームのサイズにXXXLサイズが追加されました。
*長袖の販売はありません。

販売に伴う特典など

◆オンラインショップ

*浦和レッズオンラインショップ (<http://onlineshop.urawa-reds.co.jp/shop/>) では、1月19日(火) 23:59 まで、レプリカユニフォーム 1st(半袖)の先行予約を受付中です。背番号プリント付きの予約も受け付けております。

*背番号プリント代金 1桁: 3,240 円 / 2桁: 4,320 円

〈先行予約購入特典〉

- ①先行予約でご購入の方全員に、オンラインショップで単品 3,000 円以上の商品をお買い上げの際にご利用いただける 1,000 円分のクーポン券（ご利用期限: 2016 年 2 月末日）をプレゼント！
- ②さらに先行予約でご購入いただいた方の中から抽選で 200 名様に、2016 シーズントップチーム集合写真フォトフレーム（175×225×15mm、非売品）をプレゼント！

◆浦和レッズ+ ONE キャンペーン

* 2016 ユニフォーム販売開始に合わせ『浦和レッズ+ ONE キャンペーン』を開催！

オフィシャルショップ「レッドボルテージ」、浦和レッズオンラインショップ（先行予約販売含む）、スタジアムファンショップでユニフォームをお買い上げいただくと、オリジナルユニフォーム型トートバッグ（非売品）をプレゼントいたします。



1st & 2nd 型



GK 型



ユニフォーム型トートバッグ
*サイズ: 600×400×120mm / 素 材: ポリエステル

*数量は十分に用意しておりますが、なくなり次第、キャンペーンは終了となります。



レッドボルテージ ファイナルセール開催！

* 1月19日(火) から 1月30日(土) まで、オフィシャルショップ、レッドボルテージでは、2015 シーズンの背番号グッズなど大放出の最終セールを行います。この機会にぜひご利用ください。なお、31 日(日) は棚卸しのため、臨時休業となります。

INFORMATION



2016 ユニフォームパートナーおよび新ユニフォーム

★2016 シーズンのユニフォーム及びプラクティスウェアのパートナーは、下記のとおりです。パートナーの皆様には昨シーズン同様にサポートをいただきますことを心より感謝申し上げます。



ユニフォーム及び プラクティスウェアのパートナー

(1) Jリーグユニフォーム

- ◆胸………ポラス株式会社
- ◆背中……三菱自動車工業株式会社
- ◆左袖……株式会社トーシンパートナーズ
- ◆パンツ…DHLジャパン株式会社

(2) ACL ユニフォーム

- ◆胸………三菱自動車工業株式会社

(3) プラクティスウェア

三菱自動車工業株式会社
DHLジャパン株式会社
カブドットコム証券株式会社
三菱 UFJ ニコス株式会社
メディカル・ケア・サービス株式会社

ユニフォーム及び プラクティスウェアのサプライヤー

株式会社ナイキジャパン

ユニフォーム概要

【1st ユニフォーム デザインコンセプト】

*伝統のレッド・ホワイト・ブラックのカラーコンビネーションを継承。浦和レッズのエンブレムに使用されているストライプからインスピレーションを得て、クラブ史上初となるボーダー柄を採用。クラブの象徴であるレッドをベースに、胸元にはブラックを大胆に用いてインパクトと力強い印象を与えています。また、2色のボーダー柄は、ホーム・埼玉スタジアムの美しい芝模様と浦和レッズサポーターの強く熱い赤の魂を融合させ、ピッチを真っ赤に染める様子を表しています。首元は、アジアチャンピオンに輝いた2007年当時のユニフォームからインスピレーションを得て、クラブエンブレムにも使用されているブラックとホワイトの配色を用いています。

【We are REDS ! とハートの12】

*ユニフォームの裾にはクラブの誇り「We are REDS !」をトータル色で表現し、クラブとサポーターをつなぐシンボル「ハートの12」も、ユニフォームの内側に縫い付けられています。

【SPORTS FOR PEACE ! (SFP) ロゴ】

*国連関連機関「国連の友アジア太平洋（FOUNAP）」と連携してスタートさせた国連プログラム「SPORTS FOR PEACE !」。闘いながらも、ルールや対戦相手を尊重するスポーツマンシップは、心を豊にし、たくさんの幸せをもたらします。私たちはフェアで最後まで闘うプレースタイルを貫きます。また、レッズワンダーランドづくりや地域での絆づくりへの提案もさせていただきます。その誓いの証として、今シーズンもオーセンティックに限定して、国連マーク入りのロゴがボディ背中裾に記されています。

2016 ホームゲームチケット 販売予定

*2016シーズンのホームゲームチケットは左記の日程で販売予定です。詳細は1月25日ごろ以降、クラブオフィシャルサイトでご確認ください。なお2016明治安田生命Jリーグの試合日程は1月28日(木)にJリーグから発表されます。

ホームタウン先行販売

1月30日(土) 12時～

セブンイレブン先行販売

2月5日(金) 10時～

セットチケット販売

2月6日(土) 10時～

レッズチケット先行販売

2月9日(火) 10時～

団体販売

2月9日(火) 10時～

一般販売

2月13日(土) 10時～

1/18(月) 正午まで!
2016シーズンチケット
新規申込キャンペーン!

*現在、浦和レッズでは、2016シーズンチケット新規二次申込受付を実施中です。

シーズンチケットホルダーの皆様には、オリジナルバッグ(写真)がプレゼントされるほか、浦和レッズのオフィシャル有料サイト「浦和レッズサイトメンバーズ」を無料で閲覧いただけるなど、浦和レッズからの感謝を込めた様々な特典をご提



供させていただきます。

さらに、新規お申込み者の皆様の中から抽選で、選手直筆サイン入りレプリカユニフォームなどの豪華賞品がゲットできるキャンペーンも実施中です(すでに新規お申込みいただいた方も対象となります)。

新規二次申し込みの受付期間は1月18日(月)正午までとなっておりますので、ぜひこの機会にお申込みください!

◆シーズンチケット21試合の内訳

- ・Jリーグ17試合
- ・ACLグループステージ3試合
- ・ナビスコ杯準決勝1試合

◆申込方法

- ・受付期間 1月18日(月) 昼12時まで
- ・左記URLよりお申込みください
<http://wpla.jp/ar/reds-16n2/>

◆ご不明点などは、シーズンチケット事務局までお問い合わせください。

TEL 0670-064-020
(火)土・10時～18時/祝日除く

シーズンチケット席種	料金 2016シーズン 観戦チケット1枚あたり
SS指定席	132,300円
レッズシート	79,800円
SA指定席メインローアー全席	
SA指定席メインローアー後席	69,825円
SA指定席バックローアー中央	
SA指定席バックローアー中央	
SB指定席バックローアー中央	59,850円
SB指定席バックローアー後席	
バックアップ席指定席	46,200円
ホーム自由席大人	37,800円
ホーム自由席小中高生	14,700円
準自由席大人	54,600円
準自由席小中高生	27,300円



オリジナルバッグ
(全員に贈呈)

Beating Heart Together!

*2016シーズンの「オフィシャルサポーターズクラブ(OSC)」のご登録は2月1日(月)に受付開始となります。

3人以上のグループで、クラブ名を付けて登録してください。登録料はメンバー1人あたり千円です。登録されたクラブには、公認サポーターズフラッグ(3人に1本)、認定ミニマフラー、認定カード、認定ピンバッジをメンバーの人数分お届けいたします。

どのグッズも2016シーズンのOSCキャッチフレーズ「BEATING HEART TOGETHER!」をデザインした非売品となっています。

ご登録は埼玉縣信用金庫の窓口や郵便局から、また浦和レッズホームゲーム会場、レッドボルテージでもお申込みいただけます。皆さまのご登録お待ちしております!



▲認定ミニマフラー

OSCの登録は2月1日から



▲認定カード



▲公認サポーターフラッグ(3人に1本)

◎ 清尾 淳
せいお じゅんMDPが残す
記憶

MDPは1992年9月5日に第1号が発行されて以来、公式戦ホームゲームでは必ず、スタジアムでファン・サポーターに届けられてきた。

内容は多少変化したけど、監督のメッセージ、選手の意気込み、レッズの現状、試合の見どころ、サポーターの声を、欠かさずこの小冊子に詰め込んできた。

今年の夏ごろには通算で500号を迎える（号外の特別号、増刊号を除く）。浦和レッズの戦いの歴史を初戦からずっと綴ってきたものとして、クラブが誇れるものの一つだろう。

だが、その500回の中で、優勝の喜びを伝えた号は4回しかない。レッズが公式大会で優勝したのはステージ優勝とACLを含め過去に7回だが、06年リ

グ優勝と、天皇杯優勝は達成がシーズンの終わりでだったので、次のMDPの発行がシーズンをまたいでしまったのだ。

「浦和レッズ優勝！」という文字が誌面に踊ったことが4回だけというのは少ない。もしMDPに心があつたら、「日本一のMDPより、日本一になった浦和レッズを載せるMDPがい！」と願っているはずだ。

密かにそう思いながらもMDPは胸を張っている。クラブとチーム、サポーターが、勝利のために、そしてタイトルを獲得するために、どういった思いを抱きどんな苦勞をしているか。優勝の可能性が高くなったとき、どんな心境と準備で、試合を迎えるか。無念にもタイトルを逃がしたときに、どう悔しさを吞み込み次に向かって進むつもりか。

あるいは降格の不安におびえながらも、いかにスタジアムでは前向きに闘つか。それを伝え続けてきた。ある意味では優勝の喜びを伝えるより難しい、深くて濃い多様な思いを誌面に残してきた。大げさに言えば、浦和レッズの「生き様」を記録してきたのだ。

全てを懸けてプレーした選手、心をこめて応援したサポーター。その気持ちと行動は、まじりつけのない本物であり、結果がどうあると揺るがない。

よく「この世界は結果がすべて」と言いつつ、「優勝できなければ、準優勝も初戦敗退も同じ」と自嘲することもある。

たしかに記録としてはタイトルを獲得したことしかないかもしれない。

しかし、どんな戦いをしたのかは、記憶に残しておくべきだ。次こそ、もしかしたらその次こそになるかもしれないが、来るべき戦いで勝つために。

昨季、タイトルという記録には残らなかったが、勝点72を取った戦いの記憶は残っている。ホーム山形戦の阿部のミドル、アウェイ柏戦の武藤の同点ヘッド、アウェイ神戸戦の必死の守り……。まじりつけなしに本物の戦いだっただけ。もしも記憶が薄れかけていたら、MDPを読み返して欲しい。

その記憶を、今季も多くの勝点を挙げるためのステップにしよう。

2016シーズンを、記憶にも記録にも残る年にするために。

ホームゲームでは MDP が欠かせない



★浦和レッズは、公式戦ホームゲーム（Jリーグ、ACL、ヤマザキナビスコカップ、チャンピオンシップ）で毎試合、オフィシャル・マッチデー・プログラム（MDP）を発行しています。

通常は32ページで、印刷物としては浦和レッズの最も新しい情報が得られるだけでなく、試合前に読めば応援のモチ

ベーションがいつそう高まります。またJリーグでは最も歴史のあるプログラムで、2016シーズン中に通算500号を迎えます。

定価300円。試合当日のキックオフ4時間前から、埼玉スタジアム南広場の専用ブース、北広場のグッズ売店、スタ

ジアム内コンコース専用ブースで販売しています。スタジアム外ではオフィシャルショップ・レッドボルテージ、浦和駅東口「浦和/パルコ1階」レッズゲートにもあります。

遠方の方には、通信販売も行っています。こちらでもぜひご利用ください（次ページに詳細）。

主な内容

- ミシャ監督からのメッセージ
- 両チームのメンバー、試合スケジュール
- 試合に向けた選手たちの意欲
- 相手チームの紹介

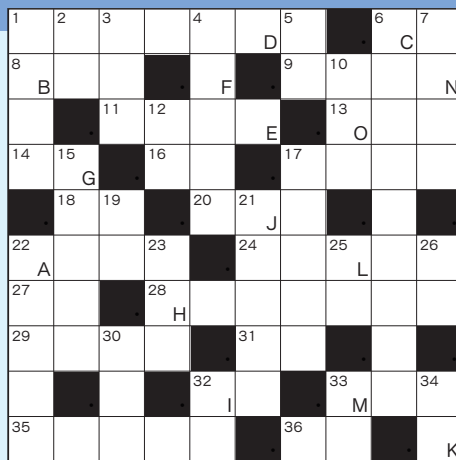
- この試合の見どころ
- 前の試合を振り返る
- 試合日程・結果・順位など
- 選手の出場記録
- 選手にスポットを当てたコラム
- 選手インタビュー

- チームメイトが語る「この選手」
- 本日のスタジアムイベントなど紹介
- サポーターの声
- 応援に力が入るコラム
- 素敵な賞品が当たるクロスワードパズル
- その他、日替わり企画

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O

ヨコのカギ

- ①リオ五輪に出場する7人制ラグビー女子日本代表の愛称。
- ②凡ミス、失敗のこと。
- ③「九十九」は「くじゅうく」「きゅうじゅうきゅう」以外に何と読む?
- ④何度も戦ってきたこと。
- ⑤少量の液体を吸い上げ、別の容器等に移動させるための道具。
- ⑥平安時代末期、源氏と戦った一族。
- ⑦市街地などの狭い道や家と家の間の通路。
- ⑧明治時代、土地を対象に課せられた税金のこと。現在は固定資産税。
- ⑨1955年に第1回アジア・アフリカ会議が開催されたインドネシア、ジャワ島の都市。
- ⑩家屋の一番上の部分。
- ⑪気が弱く、人前ではきはきしない性格。
- ⑫マーメイド。
- ⑬イギリス製作の人気テレビ人形劇「サンダーバード」。かつて主人公の集団は「国際○○○○○隊」と呼ばれた。
- ⑭代金を後日まとめて払い、その都度は支払わないこと。
- ⑮ロシアのカムチャッカ半島からアメリカのアラスカにかけて延びるのは○○○○○○列島。
- ⑯相手の粘り強さに負けること。
- ⑰あるかないか。
- ⑱2012年に「スカパー!」リーグオフィシャルサポーターを務めたアイドルグループは「○○坂46」。
- ⑲屋外イベントでは、その日の○○○が気になる。
- ⑳鍵盤楽器の呼び名でもあるが、今はパソコンの入力機器を指す場合が多い。
- ㉑「新品」「未使用」という意味。



【注意】小さい文字は普通の字としても読みます。

通常ハガキに、答え、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、〒336-8799 日本郵便さいたま中央郵便局 私書箱 92号「MDP クイズ増刊号」係まで送ってください。余白に必ず、MDPの感想、チームへの期待・意見などを書き添えてください。1月31日消印有効。正解者の中から抽選で天皇杯決勝に出場した選手(14人)のサイン入りTシャツを各1人に差し上げます(選手は選べません)。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



タテのカギ

- ①毎年2月上旬に「雪まつり」が行われる北海道の都市。
- ②かけ算の基礎中の基礎。
- ③現在、日本代表最年長ゴールの記録保持者は○○○瑠偉さん。
- ④そっけなく、つつけんな様子。
- ⑤パスコースが○○ると、つながらないことがあります。
- ⑥リオ五輪に出場する水球日本代表チームの愛称。
- ⑦「愛の反対は憎しみではなく、無○○○」という言葉があります。
- ⑧「校」「格」「杜」…。共通する部首は?
- ⑨「花咲か爺」に登場する犬の名前。
- ⑩「あっち向いてホイ」は、まず○○○○○をします。
- ⑪英語で「真空」の意味。
- ⑫「下仁田」「深谷」「九条」など地名のついた種類が多い、細長い野菜。
- ⑬地理や世界史などの教材の一つ。英語ではGLOBE。
- ⑭JALの飛行機のこと。
- ⑮一日のなかで、○○○前が一番暗い、と言います。
- ⑯ヴィッセル神戸のマスコットのモチーフになっている動物。
- ⑰韓流スター、ペ・ヨンジュンの愛称は「○○様」。
- ⑱ラテン音楽の一つでダンスのスタイルでもある。代表曲は「○○○No.5」。
- ⑲欲しくてたまらないとき「○○から手が出るほど」と言います。
- ⑳ギガの千倍。
- ㉑ことわざ。「水○○ければ魚棲まず」。

MDP 定期購読・バックナンバー通信販売のご案内

★MDP 通常号を定期購読できます。遠方の方、試合当日 MDP をお求めできない方、必ず手に入れた方におすすめて(試合当日にはお手元に届きません)。1 シーズンを通しての年間定期購読には特典もあります。また発行後にはバックナンバーを通信販売で入手できます。

■バックナンバー

郵便振替をご利用ください。郵便振替用紙の通信欄にご希望の号数を記入し、「1冊300円(本体)×冊数+送料(5冊まで82円)」の代金を添えてお申し込みください。なおバックナンバーは売上の号もありますので、必ず事前に「富士ゼロックスサービスリンク株式会社」までお問い合わせください。

■郵便振替申込要領

口座番号 00160-0-729287

口座名称 富士ゼロックスサービスリンク株 MDP係

郵便局にある「郵便振替払込用紙」に口座番号、口座名称、金額、お客様のおところ、おなまえ、電話番号を明記し、通信欄に詳細を記入してお申し込みください。

*お申し込みいただいた個人情報は、MDPに関連する送付物以外に利用することはありません。

■お問い合わせ先

〒108-0014 東京都港区芝5-33-8

富士ゼロックスサービスリンク株式会社

浦和レッズMDP係

TEL 03-5765-2036

担当 藤田・浦川

(受付時間: 平日9:00~17:30)

■年間定期購読(特典つき)

上記、郵便振替で「2016シーズン年間定期購読希望」と書き、1シーズン分の代金8,022円を添えてお申し込みください。

内訳: 300円×21試合(リーグ戦17+ACL3+ナビスコ杯1)+送料82円×21回
なお、今季の初回発行は2月24日(ACLシドニーFC戦=486号)となりますので、2月10日(水)までにお申し込みください。この日を過ぎると、486号が完売している場合があります。

●特典1: 年間定期購読をお申し込みの方には、ACL ノックアウトステージ、ナビスコ杯準決勝、チャンピオンシップへ勝ち進んだ際のMDP通常号を無料でお送りします。あらかじめ申し込まれる必要はありません(通常号以外の特別号を除きます)。

●特典2: 年間定期購読をお申し込みの方には、ご希望の公式戦先発集合写真(2L判プリントまたはPC壁紙用データ)を1枚差し上げます(シーズン終了近くにあらかじめご案内を差し上げます)。

*いずれも年間(21冊)定期購読を予約された方への特典となります。

MDP「HAPPY BIRTHDAY」コーナーのご案内

★MDPでは、浦和レッズのホームゲーム当日が誕生日のレッズサポーター・ファンの方をMDP誌上でご紹介しています。「お名前(ふりがな)」「ご住所」「電話番号」「生年月日」「性別」「新年齢」を下記へ送ってください。誕生日の7日前必着(郵送の場合、ご注意ください)。誕生日ご本人以外の方が応募する場合は、必ずご本人の承諾を得てから(サブプライズ応募はできません)。応募者の電話番号を書き添えてください。複数の方の応募はそれぞれ別にお願ひします。締切を過ぎたものや記入もれがある場合は掲載できませんのでご注意ください。なお、場内放送「GO REDS GO」の中でお名前をご紹介します。

■応募先 浦和レッズ MDP「HB」係

・ハガキ 〒336-8799 日本郵便さいたま中央郵便局 私書箱92号

・FAX: 048-814-3253 ・eメールは使用できません

MDPへの投稿のご案内

- ★試合の感想、チーム・クラブへの意見、応援に関することなどをお寄せください。
- ★MDPに掲載する際は、趣旨を変えない程度に書き換えることがあります。
- ★投稿には必ず住所、氏名、年齢、電話番号をお書きください。
- ★ペンネームでの掲載はできません。本名での掲載となります。
- ★クイズの応募ハガキに書かれたものも投稿として扱ってさせていただきます。

■あて先…浦和レッズ MDP係

【郵便】〒336-8799 日本郵便さいたま中央郵便局 私書箱92号

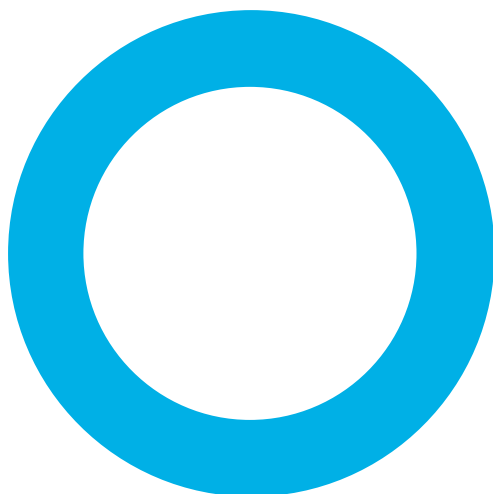
【FAX】048-814-3253

【e-mail】matchday@urawa-reds.co.jp

★MDPの通常号にも、毎回クロスワードパズルがあります。正解者に抽選で、その号の表紙(選手の写真)が前に、試合の結果が後ろにプリントされたMDP オリジナルTシャツや、選手のサイン入りバンダナ、サイン入りTシャツなどが当たります。ぜひ、ご応募ください。

Total assist

自動車保険



「3つの基本補償」と「3つの基本特約」で安心をお届けします。



(*)「対物超過修理費用補償特約」「車両全損時諸費用補償特約」は、お申出によりご契約いただける特約です。

※トータルアシスト自動車保険は「総合自動車保険」、弁護士費用特約は「弁護士費用等補償特約(自動車)」、入院時選べるアシスト特約は「人身傷害諸費用補償特約」、おくるま搬送時選べる特約は「車両搬送時の諸費用補償特約」のペットネームです。

※この広告は、トータルアシスト自動車保険(総合自動車保険)の概要を記載したものです。なお、ご契約にあたっては、必ず『パンフレット兼重要事項説明書』をよくお読み下さい。また、詳しくは『ご契約のしおり(約款)』をご用意しておりますので、必要に応じてご請求下さい。ご不明な点等がある場合には、代理店または東京海上日動までお問い合わせ下さい。

0193-EK04-07008-2010年5月作成



東京海上日動

TOKIO MARINE
Quality: 東京海上グループ

東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050

☎0120-691-300 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

定価0円(本体0円)

浦和レッドダイヤモンズ オフィシャル・マッチデー・プログラム 2016 増刊号 2016年1月17日発行

■発行・編集 浦和レッドダイヤモンズ 〒336-8505 さいたま市緑区中野田500
TEL 048-812-1001 FAX 048-812-1212 <http://www.urawa-reds.co.jp/>
■編集協力 株式会社清風庵 ■写真 加藤澄人/足立雅史/清尾淳/リーグフォト
■デザイン 株式会社ミネルバ ■印刷 富士ゼロックスサービスリンク株式会社